

TrueVIS

UV-LEDインクジェットプリンター

MGシリーズ 導入事例 CASE STORIES

有限会社 海鴻社 様

1964年に活版印刷業として創業した(有)海鴻社は、1988年に、当時黎明期であったパッド印刷を開始。以来、立体物への印刷に力を入れてきた。2003年にはデジタル事業部を立ち上げ、大判の昇華転写やボトルへの360°印刷など、他には真似できない独自技術を培い、事業を拡大しています。

業種	各種印刷・機械販売
仕事内容	デジタルプリント パッド印刷資材販売
使用目的	デカール・グッズ・ディスプレイ

TrueVIS MG-640

導入プリンター



インクタイプ

CMYKWhGIGI + S-UD-PR

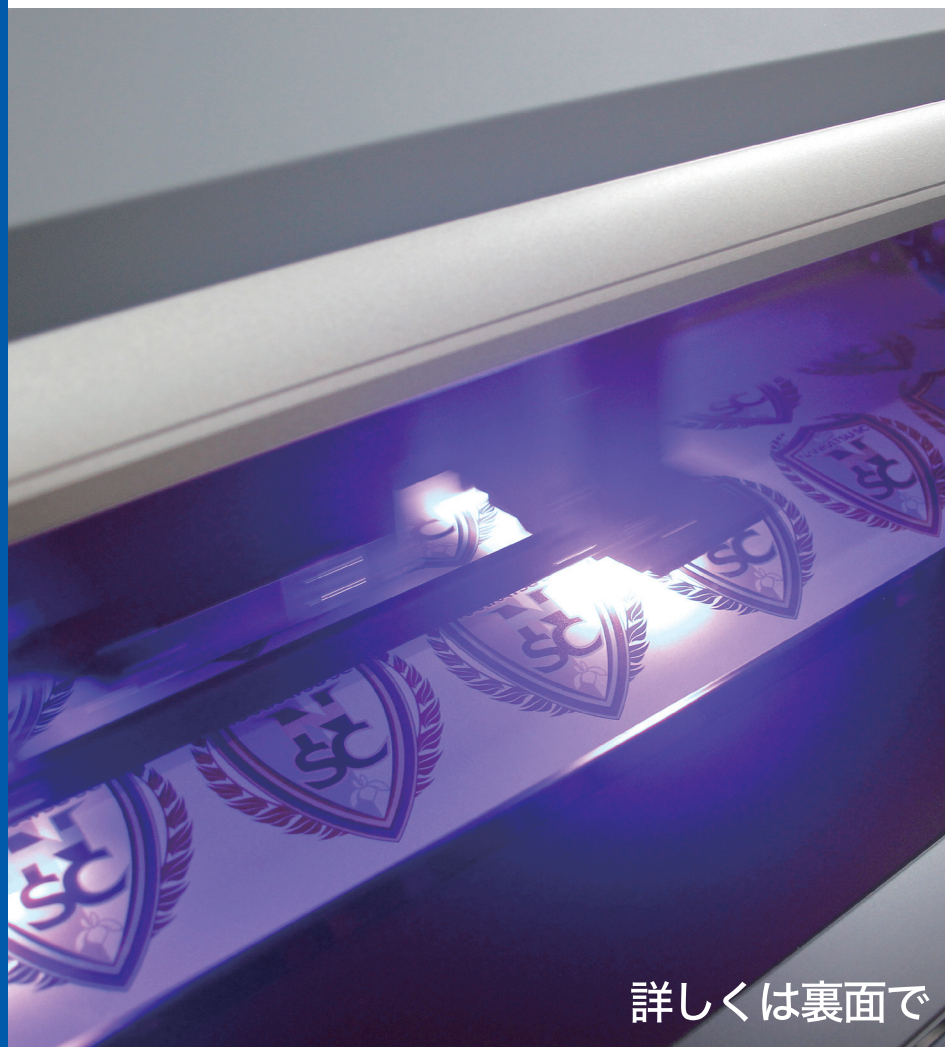


使用RIP

VersaWorks 6

様々な立体物に
新技術でプリントする

UVデカールを極めて 新しい市場を開拓する



詳しくは裏面で



「あらゆる立体物に印刷したい。 そのために必要なのが UVデカールだった」



パッド印刷からデジタルプリントの拡大

当社は以前からパッド印刷やシルクスクリーン印刷による立体物への特殊印刷を得意としてきました。やがてパッド印刷の仕事が海外に流出するようになり、新たな柱としてデジタルプリント部門を立ち上げ、ローランド ディー.ジー.のフラットベッド型UVプリンター「LEFシリーズ」を導入し、立体物へのフルカラー印刷に注力してきました。しかし、フラットベッド型のUVプリンターでは印刷が難しい凹凸のある立体物やプリンターにセットできないほど大きな商品などもあったことから、新しく登場した「UVデカール」に着目していました。



異形状に対応するためのUVデカール

UVプリントで様々な印刷を手がけてきましたが、さらに発展、成長するために、他社に先駆けてボトルへの印刷をはじめました。大ロットが当たり前だったボトル印刷市場に、インクジェットの強みを生かした小ロット受注の体制を整えて開拓を進めてきました。しかし、ボトルの中には角型などの異形状もあります。そうした商材に対応するためにも、様々な形状の立体物に対応できるUVデカールが最適だと考え、ローランド ディー.ジー.が「MG-640」を発売したタイミングで導入を決意しました。



誰でも簡単に制作可能で、多品種小ロットに対応

「MG-640」でのUVデカールを試したところ、誰でも簡単にできると感じました。ボトルだけでなく、様々な形状や素材に対応できるのが魅力で、通常ではプリントできない商品サイズや1点モノの極小ロット注文にも対応できます。今はヘルメットのオーダーが多くありますが、シルクスクリーン印刷では難しい曲面が課題でした。これもUVデカールで対応できます。当社ではいち早くUVデカールを導入することで可能性を模索し、新たな市場を開拓したいと考えています。



持ち込み商材の対応からノウハウ提供まで

ボトル印刷などは、ほぼ100%が持ち込み商材のため、中にはUVデカールの密着に満足できない結果となる場合もあります。そうした相性の悪い商材には、パッド印刷やシルクスクリーン印刷、UVプリントなどで培ってきた経験やノウハウを活用して、密着度を上げるようにしています。10種類以上の前処理剤やフレーム処理を商材毎に試し、今でもテストを続けています。インクジェットプリンターの販売もおこなっているため、当社のノウハウと共に「MG-640」を提案する、という事業にも取り組んでいます。



TrueVIS
MG-300



標準価格 1,880,000円 (税込価格 2,068,000円)

TrueVIS
MG-640



標準価格 2,280,000円 (税込価格 2,508,000円)